

生物チャレンジ2008新聞

2008年8月25日(月)

気分は一日研究者！

最終日にも前日から引き続き、生物チャレンジの目玉の一つ、最先端研究体験が始まった。長かった実験試験が終わったことや、昨日のグループワークにより緊張がほぐれてきたこともあり、参加者はのびのびと一日研究者を楽しんでいた。

澤村京一先生の研究室では「ショウジョウバエの野外採集・同定と分子マーカーによる確認」というタイトルで実験が行われた。参加者5人はショウジョウバエからDNAを採取し、そのDNAに紫外線をあてて写真を撮ったり、実際にショウジョウバエを顕微鏡を使って観察し、種の分類を行った。実験はピペットマンの使い方を丁寧に説明するところから始まり、高濃度のDNAをとりだすために、遠心分離機を用いてDNAから不純物を取り除く作業も行われた。ほかにもサーマルサイクラーという、時間を指定して温度を変化させることで、特定の遺伝子を増幅する装置など目新しい装置の連続に、参加者は興味津々だった。



実験は終始和やかな雰囲気で行われており、澤村先生が冗談を交えつつ操作を説明すると参加者からも自然と笑顔がこぼれる。実験の待ち時間では、先生と参加者の枠を超えて生物学以外の話でも盛り上がっていた。その仲のよさは、先生が「(参加者同士が)初めて会ったとは思えないほどだった。」とおっしゃるほどだ。

それでもそこはやはり生物チャレンジ参加者。ひとたび作業がはじまると真剣な表情になり、先生やTAに様々な質問を投げかけていて、参加者から実験への熱意が感じられた。終わりに澤村先生に参加者の様子についてたずねてみると「作業をてきぱきと行っていたし、質問が非常に多くて、こちらとしてははともうれしかった。」とおっしゃっていた。

そしてこの実験から何を学んでほしいかたずねると「私は遺伝学が専門だが、分子レベルでショウジョウバエを見ることで、分類学と遺伝学を融合させて、この二つの学問のつながりを学んでほしい。」と、参加者への期待を語ってくれた。



表彰式

連日続いた雨のせいか外気は若干肌寒く、道路の端々にはまだ水溜りが残っていた。そんな中、大会館に向かって歩いてくる参加者達の表情は最先端研究体験がよほど面白かったのだろう、とてもやわらかかった。

表彰式は佐藤忍筑波大学生物学類長の司会のもと始められた。川俣勝慶茨城県副知事、市原健一つくば市長、岩崎洋一筑波大学長、泉紳一郎文部科学省科学技術・学術政策局長の挨拶が終わり、石和貞男国際生物学オリンピック日本委員会運営委員長から総評があった。石和氏は「問題は全て難題だったが、皆さん優秀な成績をおさめ甲乙つけがたい結果だった。」と、参加者のレベルの高さを評価し、「高校1・2年生が健闘。女子生徒も健闘していた。この傾向を嬉しく思っている。」と期待を語った。

総評の後、2次試験通過者の発表と表彰が毛利秀雄国際生物学

オリンピック日本委員会委員長により行われた。2次試験通過者は高校3年生を除く上位15名。緊張した空気が漂った。最後の通過者の名前が呼ばれ、通過者全員が壇上にそろった。安心した顔もあれば、嬉しそうな顔、当然という顔、あるいは緊張がぬけきれない顔、人それぞれの反応だったが共通して自身の通過を納得しているようであった。

その後、銅賞19人、銀賞11人の発表と表彰が終わり、金賞の発表が始まった。金賞受賞者は10人、中でも上位3名には特別賞が授与される。まず上位3名を除いた金賞受賞者7名が表彰された。そして、特別賞の発表が始まった。3位の学長賞は高校2年生の大月亮太君、2位の市長賞は高校2年生の大河原健太郎君、1位の県知事賞は高校3年生の内海邑君がそれぞれ選ばれた。

最後に毛利氏から全体講評があった。「苦労したもの同士互いに連絡をとりあって欲しい。帰ったら仲間や知り合いに生物チャレンジの面白さを伝えて欲しい。」と、語り「毎年金メダルまで

あと一步のところだ。実力通りやればいい色のメダルは確実にとれるはずだ。」と2次試験通過者達を激励した。

表彰式後、上位3名の受賞者に話を聞いた。三者三様に語ってくれた。大月君は「賞がとれるとは思っていなかった。最終選考までにキャンベル生物学を読みつくそうと思います。」と答えてくれたのに対し、大河原君は「最終選考に行く自信はあった。だが、まだまだ学ぶところがあった。」と答えてくれた。自身の順位にたいしては対照的な答えの2人だったが、学習に貪欲という点では2人と

も変わらなかった。最終選考でも健闘してくれることだろう。高校3年生の内海君は「県知事賞をとれてとても嬉しい。ただ、ハマグリの中の場所が分からなかった。これからは身近なところを観察する力を養いたい。」と、新たな課題を見つけたようであった。

大学会館から帰っていく参加者達は賑やかだ。参加者同士でメールアドレスを交換する風景や写真を撮りあう風景も見受けられ、再会する約束もしていた。たった4日間でもできた友情だったが、生き物で繋がったこの友情は長く続くに違いない。



受賞者 (50音順・敬省略)

県知事賞 内海 邑
市長賞 大河原 健太郎
学長賞 大月 亮太

金メダル 10名

新井 佑子
内海 邑
大河原 健太郎
大月 亮太
小山 峻
松田 朋子
水口 智仁
安田 真由美
谷中 綾子
山川 真以

銀メダル 11名

阿閉 耕平
泉 貴人
久保 篤史
近藤 綾
酒井 哲郎
等々力 成葉
中島 勝紘
中山 敦仁
森山 和
山本 荷葉子
山本 正岳

銅メダル 19名

上坂 宗憲
小原 正裕
勝又 明彦
川口 美咲
小嶋 将平
逆井 清
澤井 大和
高比良 早紀
永田 拳吾
中村 篤史
新實 優卓
野上 豊
延山 知弘
橋谷 文貴
平林 勲
舟橋 位於
布山 剛
北條 巧
横山 溪

三次試験資格認定者 15名

阿閉 耕平
泉 貴人
大河原 健太郎
大月 亮太
久保 篤史
酒井 哲郎
澤井 大和
中島 勝紘
中山 敦仁
延山 知弘
水口 智仁
安田 真由美
谷中 綾子
山川 真以
山本 荷葉子



生物チャレンジ2008、ここに閉幕

生物チャレンジ2008、4日間全ての日程が終了した。そこで主役である参加者へのインタビューを行った。

「試験問題が難しくて大変でした。途中で嫌になりそうでしたが、最後には自分のためになったなと実感できました。先生方や学生の方がとても優しく、それが印象に残っています。」(森山 和 さん)

「疲れたけど、楽しかったです。普段なかなか生物学が好きな人と出会う機会が無いのですが、日本中から生物学が好きな人たちが集まってきたので、友達ができ嬉しかったです。」(中村 篤史 さん)

「試験は張り詰めた空気の中だったのでとても緊張したのですが、普通じゃできない体験ができてよかったです。最先端研究体験でES細胞を扱ったのですが、この体験を生かして将来医療系の研究がしたいと思いました。」(石山 駿 さん)

「試験問題では自分の経験不足を痛感して、もっと頑張ろうって思えました。また、面白い友達がいっぱいでき、学校では共感してもらえない話も、チャレンジでできた友達とは盛り上がり話ができ楽しかったです。」(澤田 朋実 さん)

参加者の感想から、この4日間はとても充実していたことがわかる。試験が本題だったが、なかなか触れる機会の無い最先端の科学を体験し、たくさんの仲間たちと自由に語り合う。本当にたくさんの宝物を得たことだろう。始め緊張でこわばっていた顔が、最後にきらきらした笑顔に変わっていたことが、私には印象的だった。

この体験をひと夏の思い出にせず、これからの人生に役立ててもらえれば、と願う。

最後に、参加者のみなさん、緊張の連続だったと思いますが、本当にお疲れ様でした。そして、チャレンジを成功させるためにご尽力いただいた先生方、ならびに学生スタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。またどこかでお会いできる日まで。



▲ 森山 和 さん



▲ 中村 篤史 さん



▲ 石山 駿 さん



▲ 澤田 朋実 さん



生物チャレンジ2008を終えて ～編集長のひとりごと～

生物チャレンジお疲れ様でした。どっぴり生物学に浸かっていた4日間から解放されてほっとしているのでしょうか。それとも、チャレンジで出会った仲間を恋しく思っているのでしょうか。

生物チャレンジの間、皆さんの手元に毎朝届けた新聞も、これで最後になります。最終日に書いてもらったアンケートや、チャレンジ期間中の質問に（編集長の独断で）お答えします。

〔実験試験〕

多くの人から「非常に難しかった」との評価を受けました。それを見た先生から一言。「そりゃ、難しくしないとねえ。」「（一同爆笑）」……皆さんの力に期待していたから難易度が上がったのです。

〔初日の夕食〕

チャレンジ初日。実験試験でホタテを解剖した後、なんと夕食にホタテのフライが出ていましたね。夕食に出たホタテ、もちろん皆さんが解剖したものではありませんよ。実験終了後、回収していましたが、別に「リユース」するためではありません！あのような実験をした後、愛おしさのあまり食べようとすると必ず出てくるので、危ないから回収したのです。

〔生物チャレンジ2008新聞〕

「新聞があんなに早く毎日配られたことに驚きました。」という声が多くありました。「でしょ！？（編集者一同より）」

毎晩、皆さんと別れた後、睡魔と闘いながら作ったんです。ちなみに、「新聞からごま油のにおいがする。」との話がありましたが、それはインクのおいひです。それだけできたてホヤホヤ、新鮮な新聞を届けていたのです。

ここでお詫びと訂正です。8月21日号で、日付を「2007年8月21日」としていましたが、正しくはもちろん「2008年8月21日」です。申し訳ありませんでした。

〔皆さんから、学生スタッフや先生方へのメッセージ〕

たくさんの感謝の気持ちを書いてありました。読みながらとても嬉しく思いました。こちらこそ楽しませてくれてありがとう！中でも、「夏休みをつぶしてまでありがとうございます。」と書いてくれた子がいました。いえいえ何のその！今から先輩達は夏休みの宿題をします！

〔箱根ってどこですか!?〕

このへんです。是非覚えておいてください。



生物チャレンジは、参加者の皆さんだけでなく、学生スタッフにとっても面白い経験になりました。ありがとうございました。チャレンジ期間中、皆さんの知識や生き物に対する姿勢に刺激されることが多く、大学生として負けてられない！という気持ちになりました。

同じように生物学を志すものとして、また語り合いたいなあ……。筑波大学生物学類は、先生も学生スタッフも皆さんにまた会えることを楽しみにしています！！

生き物バンザイ＼(^o^)/



お疲れ様でした！ またね！！（SCIBO一同）